

迎春

呉の未来を止めないために

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心からお慶び申します。

昨年11月に行われた市長選挙で、市民の皆様から3期目の信任をいただきました。市長に就任させていただいて以来の8年間を振り返りますと、呉市民の皆様の笑顔のために、真摯に努力してまいりました。この間、平成30年7月豪雨災害、新型コロナウイルス感染症、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止への対応に、そして防衛省の多機能な複合防衛拠点早期整備に向けて、丁寧に取り組んでまいりました。3期目においても、若者からかっこいいと思つてもらえる、そして、世界に誇れる呉市の実現に向けて全力で進んでまいります。

昨年10月には、広島大学海洋・海事未来研究所が宝町に設置されました。この研究所を起点として、広島大学と一緒に、令和8年度には広島大学海洋リモートセンシング技術センターの設置、令和9年度には広島大学大学院での海洋・海事学位プログラムの構築などができるよう努め、国際的な教育研究活動拠点を呉市に形成してまいります。さらに、

呉市・広島大学の連携を推進し、海洋・海事分野の課題解決や地域経済の活性化などの取り組みを進めいくことで、「海洋文化都市くれ」を一層推進してまいります。

また、引き続き、日本製鉄跡地への多機能な複合防衛拠点の早期整備に向けて誠実に努力してまいります。そのほかにも、呉駅周辺地域の総合開発や呉市総合スポーツセンターの産業用地への転換とスポーツ施設の再配置、世界的な海事博物館を目指した大和ミュージアムのリニューアル、産業構造の転換に好影響を与えるIT企業などの誘致、音戸の瀬戸公園へのラグジュアリーホテルの進出と公園の再整備、天恋地区へのアーバンスポーツ施設の整備など、さまざまな施策や事業について、着実に進めてまいります。

昨年3月末時点での呉市的人口が20万人を下回りましたが、4月に呉市人口戦略対策本部を設置し、具体的な施策について部局横断的に議論を重ねてまいりました。そこで、議論を踏まえ、今後は、呉市が若者や女性にとって一層魅力的なまちとなるよう、市役所をあげてさらに取り組んでまいります。本年3月にはこれらをとりまとめ、人口減少対策として「人口戦略プラン」を策定する予定です。

最後に、本年が皆様にとって健やかで素晴らしい一年となることを祈念して、新年のごあいさつといたします。

新しい年を迎えるにあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまには、旧年中、市政ならびに市議会の取り組みに温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本市においては、依然として人口減少が加速し、産業、福祉、医療、教育など、市民生活のあらゆる分野に影響を及ぼし続けています。しかしながら、私はこの厳しい現状を、呉をもう一段高いステージへと押し上げる「変革の機会」であると捉えています。状況が厳しいからこそ、未来に希望の灯をともす政策を、市民とともに進めていくことが大切であります。

そのような中、昨年、市議会だよりが中核市議会の広報紙コンクールで最優秀賞を受賞しました。議会活動の見える化、市民との距離を縮める努力が実を結んだものであり、開かれた議会への大きな前進となりました。本年も、丁寧な情報提供と対話を重ね、市民と課題を共有しながら、確かな歩みを進めてまいります。

さらに、今年は、本市の魅力を大きく高める二つの節目を迎えます。まずは一つは、全国から多くの来館者を迎えていた大和ミュージアムの

呉の魅力を高める年に



呉市議会議長
なかた みつまさ
中田 光政

リニューアルオープンです。呉の歴史・文化・技術力を次世代に伝える重要な拠点が新たな展示を備えて生まれ変わり、観光振興はもとより、市民の誇りの醸成にも大きく寄与するものと期待しております。

そしてもう一つが、若い世代を中心注目を集めるアーバンスポーツ施設のオープンであります。スケートボード、BMX、3×3バスケットボールなど、今まさに世界的に人気が高まっている競技環境が整い、新たなスポーツの拠点として、また若者の居場所づくりとして、大きな役割を果たすものと確信しております。若い世代が「呉でやりたいことがある」「呉でチャレンジできる」と実感できることは、人口減少対策においても特に重要であります。



呉市長
しんばら よしあけ
新原 芳明